

# 農業における ICT とジェンダー環境調査

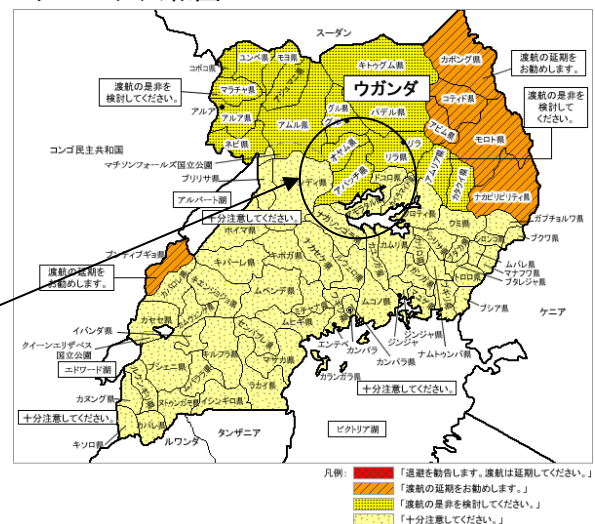
※ICT : Information and Communication Technology の略。情報通信技術

～2015年5月、ウガンダ北部の女性農家グループを対象にニーズ調査を行いました～

## アフリカ大陸



## ウガンダ共和国



## 1. 背景

ウガンダ北部は、ウガンダ政府と「神の抵抗軍」(LRA : Lord's Resistance Army) と呼ばれる反政府勢力による紛争が 20 年以上続き、2010 年にようやく終結しました。長年に渡った内戦の影響は今でも尾を引いており、ウガンダ北部は他の地域よりも貧困率が高く、発展も遅れています。

### ～収入～

住民の主な収入源は農業からで、農村地帯では今も斧や人力に頼るなど原始的な農法が行われています。

### ～交通事情～

道路や交通などインフラストラクチャー（インフラ）が、整っていないため、市場へのアクセスが限られています。また、自家用車などを所有していない農家はあちこち売りに行く手段もなく、近場の市場へ売りに行くしかありません。売れる場所が限られているため、なかなか値段交渉もできず、言われたままの低価格で売るか、売れ残った農作物を仲買人に買い叩かれるしかなく、貧困から抜け出せない状況です。

### ～情報収集～

インターネットや TV などが普及していない農村では、天気予報、マーケット価格等の情報はもっぱらラジオに頼っています。

情報を得る手段がラジオのみだと、限られた受け身の情報だけになってしまいます。（例えば、農薬の使い方、農業技術、高品質な種子をどこで取得できるかなど、知りたい情報を得る機会が限られてしまいますし、疫病などの緊急事態が発生したときの対処法などを知る手段がありません。）



～働き手～

ウガンダの多くの農村地域では 5～6 歳位からの子供でも農作業を手伝わされています。農作業や水汲みなどの重労働は女性や子供が担っており、子供たちも十分な教育を受けることができません。



～ジェンダー（男尊女卑）～

このような状況の中、さらに深刻な問題があります。それは、ジェンダー不平等（男尊女卑）です。農作業を担っているのは、ほとんどが女性にも関わらず、女性の立場は弱く、発言権さえありません。女性たちが作った農産物や収入は、主に男性が管理しています。加えて、このような地域の多くの女性は読み書きもできないため、新聞・雑誌・本などからの情報収集もできず、実際に作業している女性たちに情報が届かないという現状があります。数少ない情報手段の携帯電話を所有している世帯でも、ほとんどの場合は男性が管理しており、多くの女性は携帯電話の使い方も知らない状況です。



## 2. インタビュー調査

このような現状を聞いて、実際に北部の女性たちの状況はどうなっているのか、農家の現状、ICT、ジェンダーをキーワードに調査を行いました。

(参照：調査レポート：ICT Needs Assessment Report)

<対象> Apac (アパッチ)、Kole (コレ)、Oyam (オヤム) の3県にいる女性農家4グループ (47名、うち女性36名、男性11名)

ウガンダ北部の女性農家グループ	グループ 1	グループ 2	グループ 3	グループ 4
				
グループ名	Bed Igen women's group	Apur Pire Tek Farmer's Group	Acan Pe Kun Women's Group	Orib Cing Farming Group
県	アパッチ (Apac)	アパッチ (Apac)	コレ (Kole)	コレ (Kole)
Sub-County	Maruzi, Apac	Maruzi, Apac	Bala	Bala
農村名	Owang Central	Upper Center	Angic	Aumi 9
各グループの人数	30名 (女-24 男-6)	30名 (女-20 男-10)	30名 (女-25 男-5)	30名 (女-20 男-10)
インタビューをした人数	女性-9 男性-0	女性-9 男性-4	女性-9 男性-3	女性-9 男性-4
農業生産物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メイズ (トウモロコシ)</li> <li>・ヒマワリ</li> <li>・シムシム (ごま)</li> <li>・豆</li> <li>・ソルガム (サトウ) モロコシ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メイズ (トウモロコシ)</li> <li>・ヒマワリ</li> <li>・シムシム (ごま)</li> <li>・豆</li> <li>・キャッサバ (芋)</li> <li>・ソイ (大豆)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メイズ (トウモロコシ)</li> <li>・ヒマワリ</li> <li>・シムシム (ごま)</li> <li>・豆</li> <li>・キャッサバ (芋)</li> <li>・ソイ (大豆)</li> <li>・ピーナツ</li> <li>・さやエンドウ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メイズ (トウモロコシ)</li> <li>・ヒマワリ</li> <li>・シムシム (ごま)</li> <li>・ソルガム (サトウ) モロコシ</li> <li>・豆</li> <li>・ソイ (大豆)</li> <li>・ピーナツ</li> <li>・さやエンドウ</li> <li>・ミレット (キビ)</li> <li>・ライス (米)</li> <li>・その他</li> </ul>



以下、インタビューに答えてくれた女性の農家グループに共通する回答です。

Q: どのように農業に関する情報収集をしていますか？

A: ラジオで天気予報などを聞いています。しかし、ラジオは一方通行の情報のため、こちらが知りたい情報を得る手段がありません。読み書きもできないため、本や雑誌からも情報を得ることができず、農作物の適正価格やどこで種子や肥料を入手できるのかわからない状況です。農業の技術も得る手段がありません。

Q: 携帯電話は活用していますか？

A: 携帯電話は各農家グループに1~2名くらいは所有していますが、男性が管理しています。ほとんどの女性は携帯電話を使ったこともなく、携帯電話で情報収集を出来ません。

Q: 農作物における悩みはありますか？

A: 低品質な種子しか手に入らず、さらに新しい農法技術などを得る手段もないため、質の低い農作物になってしまうことが悩みです。また、農作物を収穫してもそれを保管する場所がないため、収穫して時間が経つとさらに質が下がり、価格も当然落ちてしまいます。また、日々の適正価格がわからず、近場のマーケットや仲買人に言われた価格でしか売れません。値段の交渉もしたことがありません。

Q: ジェンダー不平等（男尊女卑）について思っていることはありますか？

A: 男性が絶対的な権力を持ち、逆らうと暴力を振るわれることもあります。家事や子育て、さらに農作業もほとんど私たち女性が担っているのに、アイデアや意見を言える場がなく、やる気を無くすことが多々あります。せっかく自分が作った農作物も夫が売りに行き、売上金も教えてもらえません。自分たちが自由に使える収入もないため、こっそり農作物を売り、家計の足しにしている女性もいます。

このインタビューを通して、ジェンダー不平等は女性のモチベーションに大きく影響していることがわかった。

彼女たちに、「新しい農法を学びたい人、手をあげて」と問いかけたとき、彼女たちの表情が変わりました！



男性優位の環境で自分の意見をいえない…。



「新しい農法を学びたい人、手をあげて」というと急に生き生きした笑顔になった！

彼女たちの表情から、新しい農法や生産レベルを上げることに高い意欲があるとひしひしと感じました。もし女性を中心に、農業知識や意思決定の機会を与えられれば、彼女たちのモチベーションを高め、農作物の質を向上できます。そして収入向上へと繋がり、生活レベルの向上に貢献できるのではないのでしょうか。

以上のことから、インタビューを通して気づいたことを3つの項目にまとめました。

- 農業関連：原始的な農法と低品質の種子を用いているため、低品質の農作物ができてしまいます。高品質な種子の提供と、専門家による農業関連の情報提供や技術向上の機会が必要です。
- ICT 活用：情報源は主にラジオのみで、携帯電話は男性が管理しており、十分に活用できていません。しかし今回のニーズ調査にて、各農家グループに必ず数人は携帯電話を所有しており、その数人を通せばグループのメンバーと情報共有できることが分かりました。そのため、携帯電話のSMSを通した情報提供は可能だと考えられます。
- ジェンダー不平等：男性優位で女性の立場が弱いという現状があります。家事や農作業のほとんどを女性が担っているにも関わらず、彼女たちは意見も言えず、決定権もないためモチベーションを保てずにいます。コミュニティー（農家グループ）におけるジェンダー平等の意識改革も重要です。ジェンダー平等の意識が向上すれば、男性の意識も変わり、農作業などの役割分担の意識も生まれることで、女性の負担も軽減されるのではないのでしょうか。また、女性が意思決定に参加できるようになることで、男女一緒に収入向上へ向けて協力していくなどの相乗効果がでるのではないかと考えます。

### 3. 今後について

このような現状を受け、インフラや情報が行き届いていない貧困地域で、今あるリソースを最大限活かしながら、ジェンダーの意識を改善しつつ、農民自ら収入向上する技術を身につけるにはどんな支援が必要だろうかと考えております。

キーワードは「女性のエンパワーメント」、「情報提供と技術支援」と考え、上記の支援は、以下の現地団体と協働して行いたいと考えています。

#### Women of Uganda Network (WOUNET) :



WOUNET は複数の女性団体のネットワークから設立された NGO で、女性のエンパワーメント、ICT を活用した情報提供、ジェンダーの問題など様々な課題に取り組んでおり、100 以上の女性団体とのネットワークを持っています。

#### The Kubere Information Center (KIC) :



アパッチ県にある KIC は、WOUNET が 2005 年に立ち上げた情報センターです。周辺地域の女性農家グループと連携しており、農家への情報提供や ICT トレーニングなど様々なプロジェクトを実施しています。

WOUNET はすでに ICT やジェンダーに関する知見と経験を有しており、KIC では農業関連の情報提供などを行っています。広範囲にわたり女性農家グループとのネットワークも構築し、彼女たちのニーズなどを十分に把握しています。

WOUNET & KIC はウガンダ国内の専門機関をパートナーとして、多くのプロジェクトを共同で実施しているため、彼らのノウハウを通して支援を実施したいと考えています。

今後の支援につなげるために、具体的なプロジェクト案を練っているところです。

興味や案がある方はぜひお問合せください！！